

(様式1) 平成26年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	子どもたちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	--

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 谷戸高志

本年度の重点目標	1 進路実現をめざし、着実に学力をつけるとともに計画的にキャリア教育を行う。
	2 保護者や前籍校、他機関と連携して支援に努め、人との関わりを通して社会性を育成する。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			
本年度の重点目標		26年度末評価(3月18日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	進路実現をめざし、着実に学力をつけるとともに計画的にキャリア教育を行う。	ICTを活用するなど分かる喜びを実感できる授業実践に取り組み、基礎的・基本的な学習内容を着実に定着させる。	児童生徒、保護者アンケート 学部会での検証 (満足度80%以上)
		教育課程の様々な機会を通して計画的・継続的にキャリア教育を実践する。	児童生徒、保護者アンケート 学部会での検証 (満足度80%以上)
		具体的な支援に活かせる事例研究や指導法の工夫など、専門性の向上をめざした校内研究を進める。	児童生徒、保護者アンケート 職員アンケートや研究会、学部会での検証 (満足度80%以上)
2	保護者や前籍校、他機関と連携して支援に努め、人との関わりを通して社会性を育成する。	個別の教育支援計画の策定と、計画に基づく個別の指導計画の作成や評価についてのアカウンタビリティの確立を目指す。	保護者アンケート 職員アンケート、学部会での検証 (満足度80%)
		保健教育、道徳教育を通して自他を大切にすることを育て、基本的な生活習慣を身につける。	学部会での検証 (連携による満足度80%以上)
		行き届いたチーム支援に努め、体験的活動や校外学習の充実を図り社会性を育む。	児童生徒、保護者アンケート 職員アンケート (満足度80%以上)

学校関係者評価	
実施日(平成27年3月18日)	
意見・要望等	
4	<ul style="list-style-type: none"> ICTを取り入れた分かりやすい授業、興味を持てる授業にして欲しいと思います。 児童生徒の多様化が更に進むと思われるので、それに対応した教育課程の運用や工夫が必要になると思います。 旭分校においては、情緒に不安定な生徒が多いと思うので、日課をこなすだけでも大変だと思います。その中で保護者からも高い評価を得ているので、良い状態にあると思います。 個によって実態も違うので、校内研究を更に深めて実践に結びつくように生かして欲しいと思います。 個別の対応を頑張っていて大変よい。 皆それなりに進学してよいと思います。 課題は多々あると思いますが、積極的に取り組んでいます。
4	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や障害の問題からどうしても社会性の向上に難があるのが分校の生徒であると思うので体験学習や校外学習の充実はずばらしいことである。 社会と繋がる活動として白州あおぞら共和国周辺の野遊びマップの作成などはどうか。 県内の小中学校病弱特別支援学級をまわったが、多くが富士見支援学校をセンター校としては捉えていないことが意外であった。基本的には精神疾患、不登校のセンター校として認知されているようである。現場は慢性疾患に関する拠り所を求めている。 児童生徒の病気の性格上やむを得ないところかと思いますが、適応指導教室や児童福祉領域との連携はさらに強化する必要があると思う。可能であれば3つの院内学級を県立に移管できないかと思う。そうすることで病弱支援学校としての性格が明らかになる。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。